資料２－１

子どもたちがやりたいスポーツに取り組める環境づくりについて

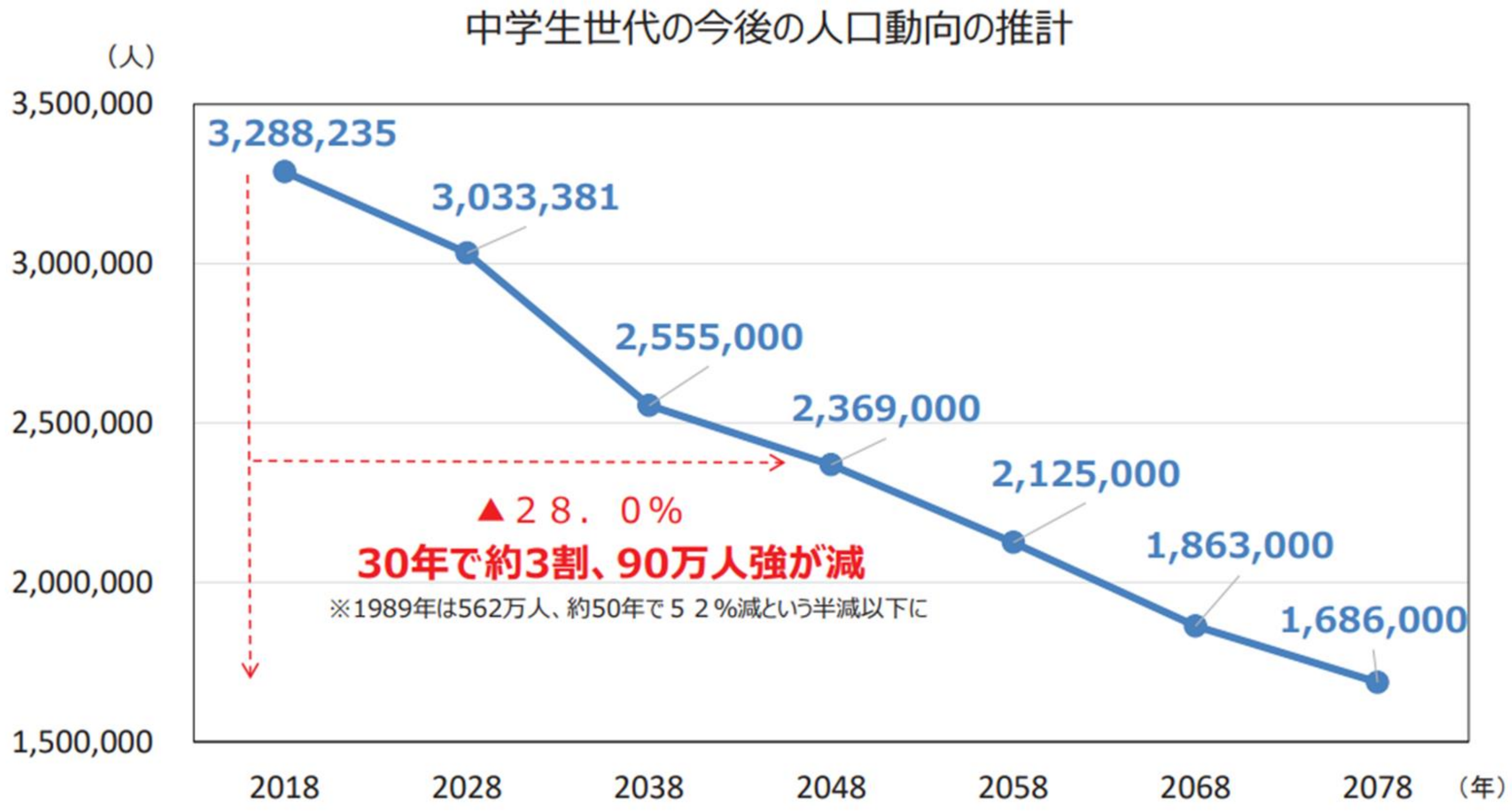
京のジュニアスポーツアカデミー構想検討会議資料

令和６年１月１８日　文化生活部スポーツ振興課

1　子どもたちを取り巻くスポーツ環境の現状

中学生世代の今後の人口動向の推移

中学生世代の人口は、日本の将来人口推計によれば、少子化・人口減少の進展により、30年で約３割、９０万人強が減少すると推計されている。

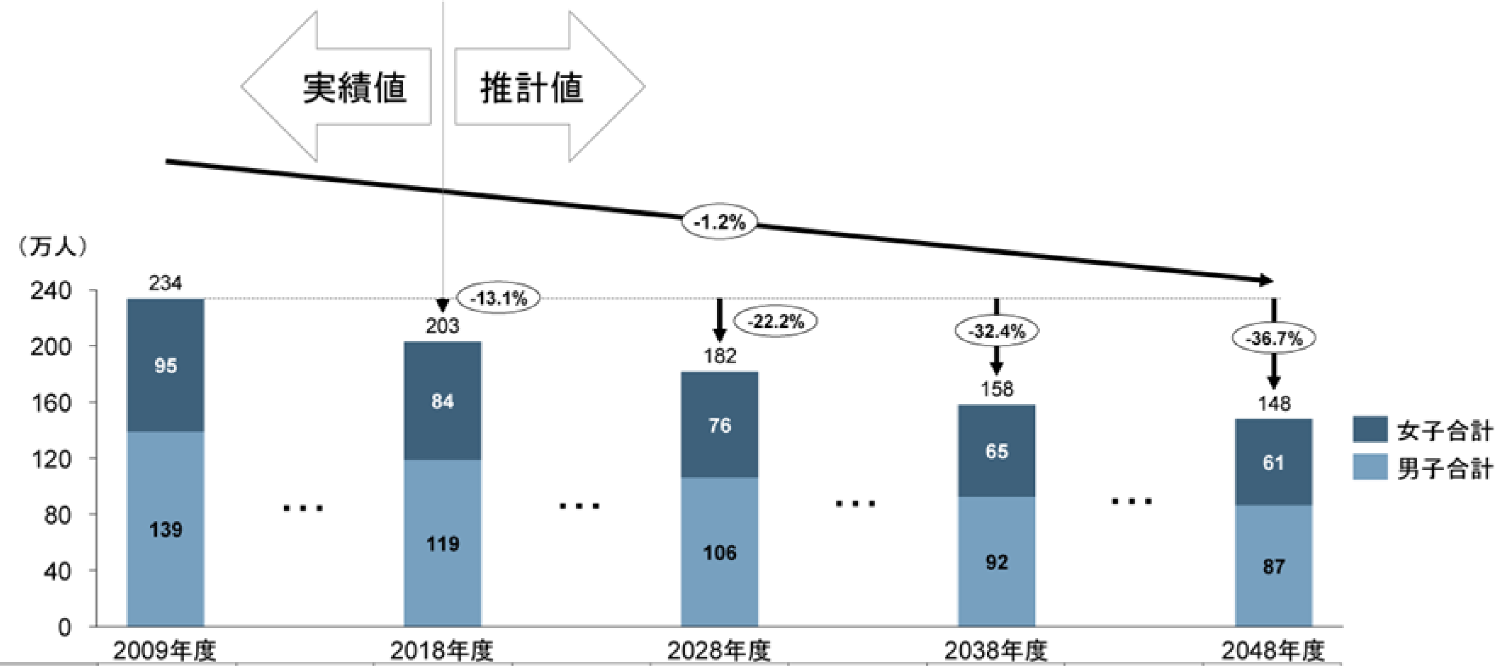


中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数
厚生労働省作成「人口動態統計」月報（2017年5月）」により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口（平成29年推計）詳細結果表」の「１．出生中位（死亡中位）推計」）を基に算出。

中学校の運動部員数

中学校の運動部員数は、2048年には約148万人へ、2009年から約36.7%減少すると推計されている。

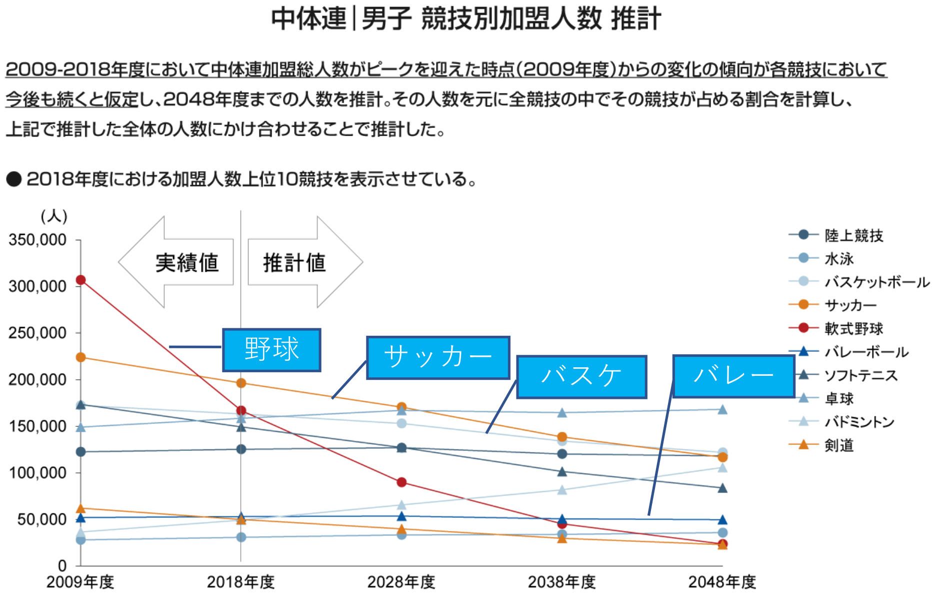
男女ともに、2009年度~2018年度の13歳~15歳人口に対する中体連に加盟している総人数の比が一定であると仮定し、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計をもとに2048年度までの中体連加盟人数を推計した。

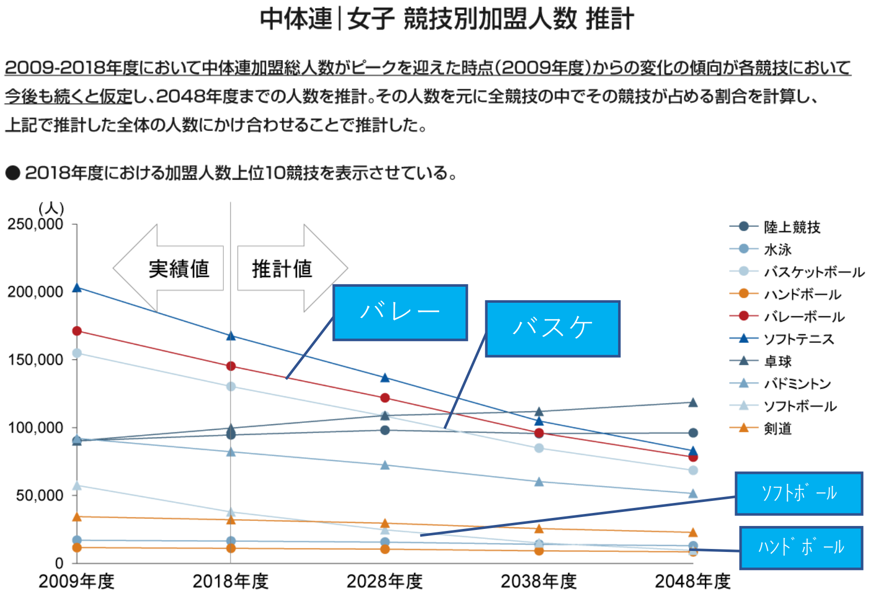


中体連加盟人数	2,336,048	・・・	2,029,573	・・・	1,816,572	・・・	1,579,776	・・・	1,479,095
2009年度を基準とした変化率		・・・	−13.1%	・・・	−22.2%	・・・	−32.4%	・・・	−36.7%

中学校の運動部員数

中学校の運動部員数を競技別で推計すると、「卓球」「バドミントン」など増加が予想される競技があるものの多くの競技で加盟人数は減少。「野球」「サッカー」「バレーボール」などチームスポーツにいたっては半減近くと推計されている。



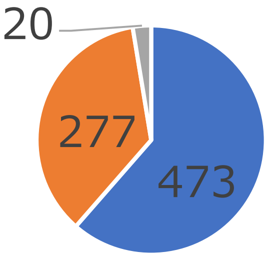


出所）実績値は日本中学校体育連盟加盟校数調査。推計値は日本中学校体育連盟加盟校数調査並びに国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）結果」を基に野村総合研究所が作成＜スポーツ庁委託事業＞

子どもたちの意識調査

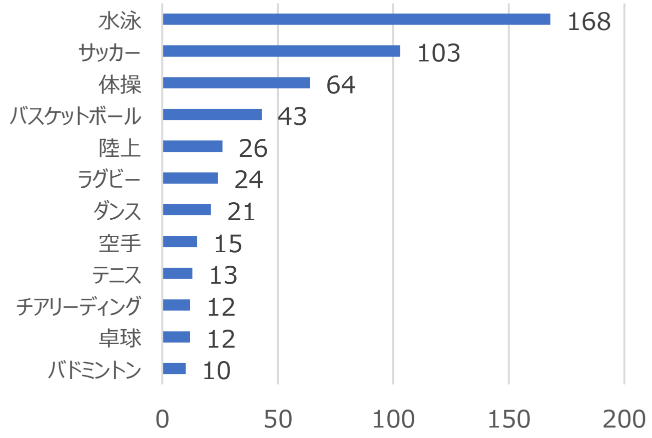
令和５年９月３０日府主催で開催の「京都キッズスポーツフェスタ」において、参加した府内小学生に対し、普段実施している競技等に関するアンケート調査を実施、多くの子どもがスポーツに関心を持っていることがわかった。

●あなたが、体育の授業以外で行っている競技はありますか？

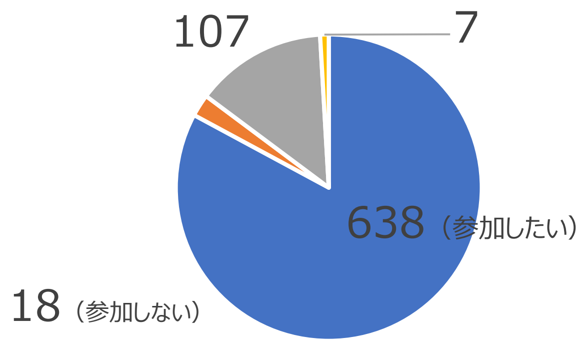


■ある：４７３　■ない：２７７　■回答なし：２０

●【ある】回答内訳（上位の結果）



●自分の住んでいる地域にプロのコーチやトップアスリートが競技を教えてくれる教室などがあれば参加してみたいですか？



■参加したい：６３８　■わからない：１０７　■参加しない：１８　■回答なし：７

（有効回答数：770件）

2　スポーツ振興に関する京都府の現行計画

京都府総合計画

- ■　府のめざす方向性を将来構想、基本計画等の形で明らかにしたものであり、令和５年に社会情勢の変化を踏まえ前倒し改定（計画期間：令和５年４月１日～令和９年３月３１日）
- ■　分野別基本施策「10.誰もが親しみ夢が広がるスポーツ」において、2040年に実現したい姿や４年間の対応方向、具体方策等を提示

◆ 2040年に実現したい姿

・スポーツを通じて地域が固い絆で結ばれている社会
・スポーツを通して府民の感動を呼び、夢とあこがれの持てる社会
・京都府ゆかりのトップアスリートが世界で活躍する社会

◆4年間の対応方向・具体方策（令和5～8年度）　抜粋

ソフト方策

❷京都サンガF.Cと連携し、子どもたちに夢を与え活力の源となる取組を進めるとともに、子どもたちが世界レベルの競技を観戦できる環境づくりを進める

❻少子化が進む中においても、子どもたちがやりたいスポーツに取り組めるよう、スポーツ団体等と連携し、**「京のジュニアスポーツアカデミー(仮称)」**を創設

⓫スポーツを通じて子どもたちが夢やあこがれを持ち、豊かな心をはぐくめるよう、トップアスリートのプレーを身近に観戦したり、体験できる取組を進める

⓭競技団体と連携し、プロスポーツをはじめトップアスリートのプレーが身近に観戦できる大会の誘致に取り組む

⓯地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ（総合型クラブ）を核とした地域スポーツの充実や、地域スポーツをコーディネートするスポーツリーダーの育成に取り組む

⓱タレント発掘・育成事業「京のこどもダイヤモンドプロジェクト」を実施し、将来トップアスリートとして国際大会でのメダル獲得をめざすとともに、豊かで明るい社会の発展に貢献できる人材を育成する

ハード方策

❶国際大会等の誘致に必要な練習会場などの整備を進め、「府立京都スタジアム」において、プロスポーツのほか全国的な大会を誘致・開催するとともに「京都アイスアリーナ」において、スケート教室等開催するなど、スポーツの魅力を府民が身近に感じられる環境づくりを進める

❼学生スポーツや国際大会にも活用できるアリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進める

❽府内の都市公園において、府民が楽しみながら運動ができるとともに、身近にスポーツを体験できる施設の整備等を進める

❾府立施設の充実をはじめ、広域的利用や、地域の特色を生かしたスポーツ振興に資する市町村スポーツ施設の整備への支援とともに、企業・大学等のスポーツ施設が一般利用できる取組を進め、府民がスポーツに親しめる環境を充実させる

京都府スポーツ推進計画

- 平成26年に今後10年間を見通した府のスポーツ推進に関する基本計画として、「京都府スポーツ推進計画」を策定（※現在次期計画検討中）
- スマートスポーツ（生涯スポーツ分野）、エンジョイスポーツ（子どもスポーツ分野）、チャレンジスポーツ（競技スポーツ分野）、「夢・未来」スポーツ拠点の整備（施設充実分野）の４分野をスポーツ推進の柱と位置付け

◆スポーツ推進計画 抜粋

ソフト方策

第1章　ライフステージに応じたスマートスポーツ

Ⅲ.府民の「する」「みる」「ささえる」気持ちを高めるスポーツイベント

２.京都の地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

(5)大規模なスポーツ大会等開催・誘致

４.プロスポーツ団体と府民が一体となった活動の推進

第2章　子どもをはぐくむエンジョイスポーツ

Ⅰ.運動・スポーツが好きになる工夫

２.体を動かすことが好きになる環境づくり

(2)トップアスリート等との交流の充実

本府ゆかりのトップアスリートやプロチームの選手を指導者登録し、子どもたちが直接指導を受けることができる「京のスポーツ夢バンク」事業を実施

ハード方策

第4章　「夢・未来」スポーツ拠点の整備

Ⅰ.青少年の夢やあこがれとなる環境づくり

１.子どもたちの夢とあこがれの舞台となり、府民が誇りを持つことができる施設

３.手軽にｽﾎﾟｰﾂを楽しめるとともに、競技ｽﾎﾟｰﾂの拠点となる施設

Ⅱ.スポーツに親しみやすい環境づくり

２.「する」「みる」「ささえる」それぞれの立場に立った施設

４.新しいスポーツニーズに対応した施設

(3)スポーツに限らず、府民が足を運びたくなるような施設整備

５.京都を元気にするスポーツ施設

3　現在の取組

京のスポーツ夢バンク事業

◆事業概要

○ 一流のアスリートとのふれあいを通じ、子どもたちに夢や希望を与えるための事業として、平成25年１月に創設

○ 京都にゆかりのあるアスリートを「京のスポーツ夢バンク」に登録し、府内の学校や総合型地域スポーツクラブ 等が実施するスポーツ教室へ指導者として派遣

◆これまでの実績（R5.3.31現在）

実施事業数：２６３　参加者数：２１，６５７人

◆主な登録アスリート（令和５年１０月現在）

登録者名	競技種目名	主な競技実績
大村　加奈子	バレーボール	2008 北京五輪　５位
寒川　進	車いす陸上	2004 ｱﾃﾈﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ　銅メダル
木﨑　良子	陸上	2012 ﾛﾝﾄﾞﾝ五輪　日本代表
阪根　泰子	車いすﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	2004 ｱﾃﾈﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ 日本代表
福士　加代子	陸上	2013 世界陸上ﾏﾗｿﾝ 銅メダル
京都サンガF.C.	サッカー	プロスポーツチーム
京都ﾊﾝﾅﾘｰｽﾞ	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	プロスポーツチーム
KYOTO BB	３×３ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	プロスポーツチーム

登録総数：個人74名、団体９チームを登録（うち五輪メダリスト１０名、世界選手権メダリスト７名、パラメダリスト１名）

京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業

◆事業概要

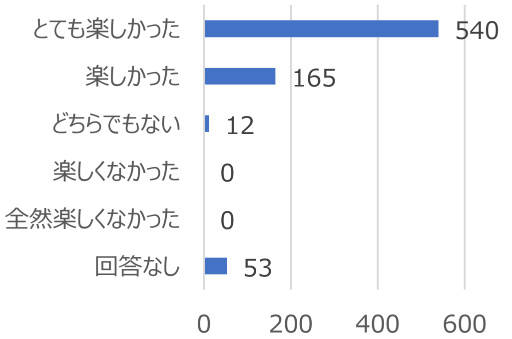
○ 子どもたちがスポーツを通じて夢や希望が持てるよう、府内小学生を対象にプロスポーツチームと連携したスポーツ体験教室や、様々な競技のトップアスリートとの交流を促進することで、スポーツの裾野拡大となる取組を展開

○令和５年度はサンガスタジアムbyKYOCERA　において１２種目の競技を実施、入場者も4,000人を超えるなど、大変好評をいただいている事業となっている。

◆令和５年度競技種目

種目	主な出場アスリート等
サッカー	京都サンガF.C.
ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	京都ハンナリーズ
卓球	京都カグヤライズ
３×３ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	KYOTO BB
クライミング	井上 祐二（日本代表）
ダブルダッチ	NEWTRAD
ブレイクダンス	BODY CARNIVAL
ボッチャ	(一社)京都障害者スポーツ振興会
ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ	(一社)京都障害者スポーツ振興会
ｼﾞｬﾍﾞﾘｯｸｽﾛｰ	村上 幸史（やり投げ元日本代表）
５０M走	吉田 匡貴（ﾊﾟﾗ陸上選手）
ラグビー	タウファ 統悦（元日本代表）

●イベント体験の感想



（参加小学生に対するアンケート結果）

ラグビー／サッカー／ダンス…

トップ選手 児童に技伝授

亀岡で小学生向けフェスタ

府内の小学生がさまざまなスポーツを体験できる「京都キッズスポーツフェスタ」が30日、亀岡市亀岡駅北1丁目のサンガスタジアム京セラであった。子どもたちは各競技のトップアスリートやコーチから直接指導を受け、ラグビーやサッカー、ブレイクダンスなど、幅広いスポーツに親しんだ。

ラグビー体験では、元日本代表で花園近鉄ライナーズ所属のタウファ統悦さんがコーチを務め、地元の亀岡高ラグビー部もサポート役として参加した。タウファさんは「タックルは脇を締めて、怖い顔をすると力が入る」と説明。子どもたちはボールを片手に、真剣な面持ちでミットに飛び込んでいた。日本代表のジャージーを着て参加した前田一帆さん（9）＝京都市下京区＝は「コーチも高校生も優しく教えてくれて、楽しかった」と笑顔で話した。

スタジアムの敷地内では卓球やバスケットボール、ボッチャなどの体験コーナーもあった。

府が主催し、「京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業」の行事として、昨年に続いて開かれた。（町塚葵）

亀岡高ラグビー部の部員たちにリフトされ、ラインアウト時のプレーを体験する小学生（亀岡市亀岡駅北１丁目・サンガスタジアム京セラ）

（R5.10.1　京都新聞朝刊）

民間スポーツ施設活用事業

◆事業概要

　府民スポーツ施設の不足という課題を解消するため、府内の企業や大学等が保有するスポーツ施設の「空き」を活用して、府民が一般利用できる新たな仕組みを構築し、府民がスポーツを楽しめる環境を充実させる

◆これまでの取組

○府内企業（455社）、大学及び短期大学（37校）、私立高校（51校）へのアンケート調査
○施設を保有する企業、大学等への聞き取り、開放に向けた働きかけ
○郊外に野球場を持つ私立高校（３校）と、練習場所に困っている中学生硬式野球チームとのマッチングによるモデル事業を実施　＜延べ20回のマッチング　（R5.12.31現在）＞

府内運動施設の状況

施設種	施設総数	大規模施設数	大規模施設数の全国順位	大規模施設数人口当たりの全国順位
陸上競技場	23	19 1周400mのトラックを有するもの	27位	40位
野球場 ソフトボール場	115	40 10,000㎡以上	42位	44位
球技場	48	23 10,000㎡以上	25位	36位
多目的運動場	797	240 10,000㎡以上	31位	44位
体育館	873	114 1,300㎡以上	33位	44位

（スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査（R3年度）」を基に算出）

◆民間スポーツ施設開放に向けた課題

○ スポーツ施設へのアクセス上、施設敷地内に立ち入る必要があるが、機密情報や顧客の情報管理上、高い機密性があり、部外者の立ち入りを禁止している。
○ 府民に開放に係る様々な手間（利用者や府との連絡調整、相談・苦情対応、料金収受、清掃・メンテナンス等）が発生するが、貸し出しのための仕組み（利用料金設定、予約システム、管理方法、担当者）がない。
○ 利用者のマナー違反を懸念しており、不特定多数の者となると若干不安がある。

◆府民開放の促進に向け、施設の管理・セキュリティ上の課題を解決するとともに、利用促進につながる新たな仕組みの検討

京のジュニアスポーツアカデミー構想

◆事業概要

少子化の中でも、将来にわたりすべての子どもたちがやりたいスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保に向けた施策を推進

◆これまでの取組

〇 令和４年度 府内の小中学生を対象としたスポーツ活動に関する実態調査を実施

（調査対象）
・地域スポーツクラブ調査
府内（京都市除く）の小中学生を対象とした民間等 のスポーツクラブ ５６７件
・公立中学校調査
府内公立中学校（京都市立除く）の部活動 ９６校

〇 令和５年度 教育委員会と連携し、各市町村教育委員会 へのヒアリングを実施

（ヒアリングの概要）
・時期 ８月～９月
・対象 各市町村(組合)教育委員会、スポーツ担当課
・部活動以外で新しい競技や複数種目に触れる機会の設置予定や、部活動未設置種目(ﾁｰﾑｽﾎﾟｰﾂ)に対する子どもたちのニーズの状況等について意見交換

◆今後の対応

引き続き、子どもたちの意向やニーズの把握に努めるほか、スポーツクラブの設置を含めたジュニアスポーツアカデミー構想の検討を進めるため、行政やスポーツ関係団体等、様々な立場の方から望ましいスポーツ環境に関する意見を聴取することとしている。